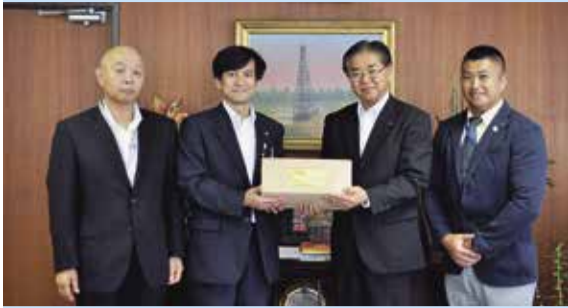


19万人のひろば



■「酒々井ちびっこ天国」の施設優待券を提供していただきました 7月1日、酒々井町とセントラルスポーツ株式会社から、大型プール施設「酒々井ちびっこ天国」の優待券が提供され、市内の全小学校児童1万1,268人に配られました。

勝田中央公園水泳場は17年に休止し23年に廃止、総合運動公園市民水泳場は20年に休止し25年に廃止しています。このため大空のもと、思いっきり屋外での水遊びを楽しんでもらおうと、今回の施設優待が実現しました。

ありがとうございました

●早坂英子様から、日本工芸会主催の伝統工芸部会展で多くの入選・受賞歴のある折野美代さん作の「盛夏もんじゅうぶ 文七宝壺」の寄付をいただきました。



浴衣で一服

西高津小学校で「浴衣茶会」を開催

7月11日、西高津小学校の茶室で、茶道クラブによる浴衣茶会が開かれ、14人の子どもたちが色鮮やかな浴衣で参加しました。1学期の活動の集大成として行われるこの会は、今年で10回目を迎え、初めて卒業生も招待されました。茶道クラブは、16年から地域の協力を得ながら活動しています。ボランティアで教える茶道師範の塚嶋宗理さんは、「飲むときは茶碗の絵柄が相手に見えるよう配慮するなど、茶道特有の礼儀作法から、優しい心やおもてなしの心を育ててほしい」と話していました。

▶お茶を点てる時は、茶せんの振り方が最も重要です



70年前を忘れない

～米本空襲体験談から命の大切さを知る～

山寄光江さん（81歳／旧姓：仲村）
相場よしさん（81歳／旧姓：斎藤）

70年前の昭和20年（1945年）、日本本土への空襲が激しさを増し、本市でも米本地区を中心に空襲があり、11人が犠牲になりました。この事実を風化させないよう、今では数少ない体験者である山寄さんと相場さんに話を聞きました。



▲相場さん



▲山寄さん

昭和20年2月19日の昼過ぎ、アメリカによる米本地区への空襲がありました。11人が亡くなり十数人が負傷しました。これは、爆撃機が東京を空襲した帰路、機体を軽くするために、残った爆弾を投下していったものと推測されています。

当時、この辺りには病院が無かったので、負傷者は牛車で船橋の病院まで運ばれました。しかし、病院には消毒薬がなく、酪農の盛んであった千葉県は破傷風菌の常在地でもあるため、多くの人が傷口から感染し、亡くなったそうです。

この日は警戒警報が発令されたため、午後から休校になりました。当時小学生だった2人が空襲にあつたのは下校直後でした。山寄さんは、自宅の壁の下敷きになった2歳の弟を助け、裏の畑へ避難。そこで意識をなくしました。病院に運ばれましたが、自らも足が骨が突出し、首の回りにガラスが刺さるなどの重傷でした。危険な状態に加え、運びこまれた病院の近くにも焼夷弾が投下されたので、助かったことは奇跡でした。この時の傷（写真）は今でもはっきりと残り、体内には爆弾の破片があるそうです。

相場さんは、下校すると一度は防空壕へ避難しましたが、6歳だった弟が「水が飲みたい」と言い出

したため、庭の井戸へ水をくみに出ました。その時、家の近くに爆弾が落ち、とっさに井戸の流し台下へ潜り込みました。幸いにも爆弾は不発でした。2人を探していた両親は、泥まみれになって「目だけが光っている」姉弟を見つけ、「生きてよかった」と心から安堵しました。

その後も米本地区への空襲は連日続いたそうです。当時は、授業を潰して農作業をしなければなりません。現在の国道16号沿いの畑で農作業をしていたときです。警戒警報が遅れ、すでに敵機が頭上に来ていました。相場さんは、担任の指示で近くの竹藪へ全速力で逃げ込みましたが、遅れた級友が機銃掃射を受けて亡くなりました。級長だった責任から助けに戻ろうとしましたが、担任から「今は1人でも多く生きること」と、止められました。今でも忘れることのできない辛い思い出です。

山寄さんは「昨日のことはすぐ忘れてしまうけれども、70年前のことは決して忘れることができない」、相場さんは「普通の生活ができなくなってしまう戦争は、絶対によくない」と平和な社会を強く望んでいます。これからも、声の続く限り少しでも多くの人に米本空襲を伝えていきたいと話していました。



◀足の傷は今でも残っています

▼焼けてくっついてしまったお金



戦争体験記録集を販売しています

広報広聴課では、「市民の戦争体験記録集・あの日から」を販売しています。第1部「八千代・米本空襲」昭和20年に起きた米本空襲の記録や証言。第2部「私の戦争体験」一般公募した、市外での戦争体験記50編を収録。昭和62年発行、800円。詳しくは同課☎483-1151へ



リサイクル・ガイド

消費生活センター ☎485-0559

●この欄のお問い合わせは消費生活センターへ。受け付けは土曜・日曜日、祝日を除く午前8時30分から午後5時まで（午後4時～5時は☎483-1151へ）。交渉は当事者で行い、結果は必ず同センターへ報告を。

- 【あげます】▶散水ホースリールセット（10m）
- ▶けやきの和ダンス（漆塗り／117cm×170cm×46cm）
- 【ゆずります／有料】▶タイヤ（マークII専用・4本／205×55×16インチ）▶三菱製浴室換気乾燥暖房機（壁掛け式／幅50cm×奥行25cm×高さ25cm）
- ◆市役所1階ロビーのリサイクル品情報コーナーもご利用ください。また、同センターでは、食品の放射性物質検査も行っています。

八千代歌壇

佐波 洋子選

少年のシャツの白さに振り返る約束がいつも「ほんと」だった日
牡丹花の開ききつたる花びらは疲れて眠る獅子の顔なり
職退きて尚書きつづる日記帳雨の月曜日何事もなし

三十年の合唱して来し仲間の葬儀事終りてうたうミサ曲
はらり散る言いで得て妙なる白き包ハンカチのきは五月に笑う
愛した、書いた、祈った 寂聴 墓碑銘すでに決めてある

食べられぬと伝わりきたる刻をもつへび母の赤梅の実の青
夕雲が頬を染めてる連れ合いて六十二年の夫と私
（大和田新田） 梁井りつ子

選評 一首目、すれ違った少年のシャツの白さが眩しく光る。輝く白さがかつて自分にもあった。約束を裏切る事も忘れる事もなかったあの頃なのだろう。人は皆そんな時を持つていたのだと気付かされる。二首目、任侠映画の唐獅子牡丹ならぬ疲れた獅子が、ユーモラスで可愛い。下の句の比喩が妙に納得させる。三首目、男性が退職した後の無聊の日々。気がつけば今日は月曜で雨まで降っている。平穩と無為の境にいて「尚」の意味を問う。

やちよ川柳

八千代川柳連盟選

違つ名で呼ばれその後のそっけなき 大和田新田 齋藤キミ子
闘病もねあかの妻に助けられ 米 本山崎すす夢
さくらんぼ音符はじける口の中 村上団地 手塚 俊子
気取つても様にはならぬ田舎者 萱田 町 藤田異三夢
負け犬のたればを聞く耳の栓 大和田 羽生田はる
もう一人ママは白書に期待され 大和田新田 矢澤 光江
窓際の椅子には何時も陽が当たる 勝田台 石井 恒生
うまい汁鼻利くらしい蟻の群れ 勝田台 阿部ふき子

やちよ情報メール
（防災・防犯・環境・火災・イベント・徘徊高齢者等）
登録申し込みは ☎yachiyoo@sg-m.jp <

